

京都外国語大学ラテンアメリカ研究所講演会

市川 彰 (いちかわ あきら)

(京都外国語大学ラテンアメリカ研究所客員研究員・
日本学術振興会海外特別研究員・コロラド大学ボルダー校博士研究員)

「巨大噴火に屈しなかった古代メソアメリカの人々」

この度京都外国語大学ラテンアメリカ研究所では、コロラド大学ボルダー校博士研究員市川彰先生をお迎えし、講演会を開催いたします。

弊研究所客員研究員でもおられる市川先生は、メソアメリカ地域における文明史について、これまで様々な研究をされてきました。その研究成果「メソアメリカ文明史上最大規模といわれるイロパング火山の噴火にたいする古代の人々の対応について」が9月21日付英国ケンブリッジ大学出版局の雑誌「Antiquity」オンライン版に掲載され、また、10月9日にはNational Geographic 日本版サイトでも紹介されました。

近年耳にするようになった「人災」という言葉のように、自然現象の人間社会への影響を考える場合、これに対峙してきた人類の対応の歴史の解明は現代社会にもつながる重要なテーマです。

今回の講演会では市川先生ご自身が発掘調査をされた中米エルサルバドル共和国サン・アンドレス遺跡の考古学資料をもとに、古代の人々が従来考えられていたよりも早くから、噴火後に活動を再開したこと、また、この再活動にはメソアメリカ社会の核であった公共祭祀建造物を造るという協働作業が含まれており、それが復興の過程において社会統合に重要な役割を果たしたことなど、現代の私達にとってもいま大変興味を引く貴重なお話を伺えると思います。

是非、この機会にご参加ください。

日 時: 2021年12月3日(金) 18時00分～19時30分

Zoomによるオンライン開催 参加費無料/事前予約要

主催: 京都外国語大学ラテンアメリカ研究所

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6

Tel: 075-312-3388

E-mail: ielak@kufs.ac.jp